

新基地建設反対名護共同センター ニュース

誰が自民党総裁になっても米国トランプの言いない

「地方自治を踏みにじる代執行は認めない」、「私の税金、戦争に使うな」などの横断幕、プラスターが掲げられる中、オール沖縄会議主催の第五二回県民大行動が4日取り組まれ、四七〇人が参加した。

主催者を代表して、オール沖縄会議の稲嶺進共同代表は、「自民党総裁選によるメディアジャックともいふべき状況だ。そして五人とも日米地位協定問題、米軍基地問題には言及しない。誰がなっても絶対に諦めずにがんばっていく」と挨拶。

野党国会議員団「うりずんの会」を代表して赤嶺政賢議員は、「防衛大臣は『沖縄では自衛隊への過度な抗議行動が起きている』と言ったが、沖縄戦で国策の犠牲になったことを忘れ、新たに国策で県民に大きな負担を押し付けることなど絶対に許せない。国会でも全力で頑張る」と連帯挨拶を行った。

各地域からは、「県議会では、平和の祭典『全島エイサー』への自衛隊参加に異議を唱えたことを職業差別だと論点をすり替えた議案が提出されようとしている。許さない闘いを!」、「PFAS汚染の原因は何か、米軍は基地への立ち入り調査もさせない。汚染した者が除去するのが当然だ。署名運動に協力を」、「宮城島では一日四十台のダンプ台数の規制を破り二二〇〜二三〇台が運行され道が破壊されている。そして国がすべき補修工事を市の予算三二四・五万円で行った。住民監査請求の取り組みをしている」、「米労組APALAが辺野古の闘いに参加し、改めて県民と連帯して運動する立場を表明した」などのスピーチが続いた。

玉城デニー知事からは、「これ以上の基地負担はあってはならない。辺野古新基地建設に引き続き不退転の決意で反対していく」とのメッセージが寄せられた。



与那国町長選挙にみる民意の反映～自治を取り戻す新たな共同の芽ざし

郷里・与那国島の町長選挙は去る8月24日に行われ、元町議の上地常夫氏が現職の糸数健一氏を退けて初当選を果たした。上地氏は、人口減少対策と島の活性化を目的に自衛隊誘致に奔走した外間元町長を支える側近の要職にいた。元町長の外間氏は、軍事要塞化していく島の状況を憂い「監視部隊の誘致はしたが、ミサイル配備は聞いていない。穏やかな島の生活が脅かされそうになっている」と告発した。上地氏は、選挙中、2016年から本格化させた「南西シフト」戦略の出発点である与那国島で「これ以上増強には慎重」、「日米共同訓練は島になじまない」と、軍事機能の強化、規模の拡大には抑制的な対応で訴えている。

保革を超えた広範な共闘は叶わなかったものの、「情報の公開」を基本に町政の刷新を求め、革新のスタンスである二人の議員が上地氏を支援し、共闘した。以上の元町長、上地氏、二人の議員の言動は、大方の町民の声を代弁したことの表れであろう。

電子戦部隊の配備、ミサイル部隊の配備計画と、段階的・なし崩し的に機能を増強している。その上での日米一体の軍事訓練、前糸数町政の国策への迎合的な姿勢に、今回の町長選の結果が警鐘を鳴らしたと言ってよかろう。「自治」を取り戻す

新たな共同の芽ざしがでてきたことである。

与那国島では、大正から昭和初期にかけて、住民集会的な自治組織が大正デモクラシーの影響と相まって改革村政を誕生させた歴史がある。いわゆる、住民自治の萌芽である。与那国町の「これから」の発展を願わずにはおれない。（宮良純一郎）



大浦湾に打ち込む砂杭に使う海砂の採取は自然破壊の極み

沖縄防衛局は昨年一二月末、大浦湾の「軟弱地盤改良工事」に着手し、今年一月には数万本の砂杭を打つサンドコンパクション船が入域し、世界的に見ても生物多様性が著しく高い大浦湾が、まるで工業地帯と見紛うほどの巨大工事船舶で埋め尽くされました。

生残率の非常に低い一〇万群体以上のサンゴ移植に続き、いま海砂採取という新たな問題も起きています。地盤改良の敷き砂や数万本の砂杭には県内で使用する約三〜五年分にもなる大量の海砂を、

- ① 慶良間諸島国立公園内
- ② 沖縄県海岸国定公園近接海域
- ③ 生物多様性の保全上重要度の高い海域

・環境省

- ④ ジュゴン生息痕集中海域
- などから採取し使用するのはです。

海砂の採取は非常に乱暴で底生生物ごとバキュームで吸い上げ、作業船からは汚濁水を周囲へ撒き散らします。そしてやがては採取地周辺の海岸地形にまで甚大な影響が及びます。

また驚くべき事に、この設計変更に関する工事に限っては環境アセスが実施されていません。マヨネーズ状の軟弱地盤へ数万本もの砂杭を打設するというのに有効な汚濁拡散防止策も無いのです。海砂採取そのものが甚大な海洋生態系の破壊であり、また採取に伴う海洋汚染は採取海域にとどまらず広範囲にわたり、必ずや沿岸海域の地形や景観にまで影響が及びます。

このままでは沖縄の重要な観光資源でもある『美しいサンゴ礁の海と白い砂浜』の消失が危ぶまれるという危機的な状況です。海砂採取の問題点を二回に分けて報告します。